

用語解説

用語解説

あ 行

あきさかり

水稻の品種で、高温耐性を持ち、短桿で倒伏しにくく、多収が見込める。

近年、水稻栽培においては、高温障害や台風による倒伏の発生など、地球温暖化による品質低下が問題となっており、徳島県は平成28年度、奨励品種に採用。

アグリサイエンスゾーン

徳島大学石井キャンパスと農林水産総合技術支援センターを核として、産学官が連携し、それぞれが持つ強みを生かし、農業の次世代を担う人材育成と革新的技術開発に取り組む拠点。

アグリビジネスアカデミー

農業者やこれから農業をはじめの方を対象に、農業技術、農業経営及び6次産業化などの講義や実習を行い、グローバル化にも対応できる経営能力を有し本県農業の成長産業化を担う即戦力となる農業人材を育成する研修課程。平成25年4月、農林水産総合技術支援センター農業大学校に開講。

アニマルウェルフェア

家畜を快適な環境下で飼養することにより、家畜のストレスや疾病を減らし、結果として生産性の向上や安全な畜産物の生産につながるという考え方。

阿波尾鶏

県内で古くから飼養されていた赤笹系軍鶏を徳島県が10年の歳月をかけて純粋繁殖により、昭和63年に造成した雄系に、優良肉用鶏であるホワイトプリマスロックを掛け合わせた一代雑種鶏。

阿波地美栄

「阿波地美栄処理衛生管理ガイドライン」に即した食肉処理施設で適切に処理されたシカ肉、イノシシ肉のこと。

阿波地美栄取扱店

阿波地美栄及び阿波地美栄を用いた料理や加工品を提供する施設や店舗のこと。そのうち、阿波地美栄と徳島県産の野菜、果実、魚介類等の食材や調味料等を使用した地域色が豊かな料理を提供する飲食店や喫茶店等を、特に「うまいよ！ジビエ料理店」と呼ぶ。

阿波とん豚

徳島県が、最新の遺伝子解析技術を駆使して選り抜いた、イノシシの肉質特徴を受け継ぐ、全く新しいブランド豚。

阿波ふうど

全国に向け「徳島の食」の魅力や価値を伝えるブランドネームで、2016年度に制定。阿波（徳島）の風土に育まれた食（food）が幸をもたらすという意味。

阿波ふうどスペシャリスト

徳島の豊かな食に共感し、応援いただける、発信力の高い県内外の個人・店舗・法人・団体を認定している。「徳島の食」を応援し、県と連携して、その魅力を発信する。

新たな森林管理システム

平成31年4月に施行された「森林経営管理法」に基づき、森林所有者に森林管理に関する意向調査を実施し、結果を基に、所有者から市町村が管理を受託し、林業経営、管理をするシステム。

エコファーマー

「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、たい肥等による土づくりと化学肥料・化学合成農薬を慣行基準から2割以上削減する計画を策定し、県知事が認定した農業者の愛称。

エシカル消費

地域の活性化、雇用等も含む、人、社会及び環境に配慮した思いやりのある消費行動。例えば、地産地消、被災地への応援消費、障がい者の社会参加につながる消費、地域紛争や児童労働といった人権問題等の解決に寄与する商品の購入、食品ロスの削減等。

越境EC (electronic commerce) サイト

インターネット上で、国境を越えて、商品やサービスを販売するウェブサイト。

オープンラボ

農林水産総合技術支援センターに設置された開放型実験施設。

オープンイノベーション

新技術・新製品の開発に際して、組織の枠組みを超え、広く知識・技術の結集を図ること。

か行

カーボン・オフセット

自らの日常生活や企業活動等による温室効果ガス排出量のうち、削減が困難な量の全部又は一部を、他の場所でも実現した温室効果ガスの排出削減や森林吸収等をもって埋め合わせる仕組み。

カーボンニュートラル

木材などの植物由来のバイオマス燃料などが持つ、燃やしても大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えない性質のこと。

カワウ

カツオドリ目ウ科に属する水鳥で、体長80～90センチメートル。沿岸部や内陸の湖沼河川で主に魚を食べるため、現在は増加したカワウにより内水面における漁業被害が全国に拡大している。

川上・川中・川下

林業・木材産業における、木材の生産から加工、利用までの流通体制のこと。川上は造林、素材生産部門などが、川中は製材・加工・流通部門などが、川下は住宅建築をはじめとした消費部門などが該当する。

かんきつテラス徳島

勝浦町に立地するリタイアインフラである旧果樹研究所を活用し、かんきつを核とした農村地域の更なる活性化を図る拠点として、令和2年度に開設。「かんきつ人材の育成」「新たな交流の創出」「地域活力の向上」といった「3つの機能」を兼ね備えている。

用語解説

漁獲可能量（TAC）管理

魚種ごとに年間漁獲量の上限値を定めて漁獲制限をかけ、水産資源を管理する手法の一つ。

※TAC：Total Allowable Catch

漁業版BCP

南海トラフ巨大地震等で被害を受けても、漁業が早期に再開できるように、県として事前に実施すべき業務内容や実施体制を明らかにした計画。

※BCP：Business Continuity Plan

クール林業経営体（意欲と能力のある林業経営者）

平成31年4月に施行された「森林経営管理法」に基づく新たな森林管理システムにおいて、市町村から経営管理実施権の設定を受けることができる一定の条件を備えた「意欲と能力のある」林業経営者。

グリーン社会

令和2年10月の内閣総理大臣所信表明演説における「2050年カーボンニュートラル宣言」により目指す将来像。成長戦略の柱に「環境と経済の好循環」を掲げ、特に成長が期待される14の重要分野の実行計画等に基づき、国・地方の政策を展開している。

高性能林業機械

従来のチェーンソーや集材機に比べ、安全かつ効率的に作業ができ、性能が著しく高い林業機械。建設用重機をベースに林業用アタッチメントを装備したものが主流で、本県ではスイングヤーダ、プロセッサ、フォワーダの3点セットのほか、ハーバスタやタワーヤーダなどが使われている。

公的管理森林

森林の有する公益的機能を維持増進するために公的機関が管理する森林。具体的には、県、市町村及び徳島森林づくり推進機構が所有又は契約や受託により管理する森林のこと。

コールドチェーン

生鮮食品を生産・輸送・消費の過程で途切れることなく低温に保つ物流方式。

コンテナ苗

林業用の苗木で、樹脂製の多孔容器（マルチキャビティコンテナ）で生育し、根鉢（土）が付いているもの。従来の苗と比較し、乾燥に強く、ほぼ通年植栽が可能、植栽作業が容易、育苗作業の労働負担軽減等の特徴がある。



行

サイエンスゾーン

本県農林水産業の成長産業化及びその関連産業の振興を図るため、産学官が連携し次世代を担う人材の育成と研究開発を進め、新たなイノベーションを創出する知と技の集積拠点。アグリ、フォレスト、マリンの3つのサイエンスゾーンを形成。

サーベイランス

調査監視のこと。感染症におけるサーベイランスは、感染症の制御や予防対策に用いる目的で、感染症の発生状況やその推移を系統的、継続的に収集し、分析すること。

山地防災ヘルパー

阪神・淡路大震災を契機に発足されたボランティア団体で、山地における災害情報の迅速かつ的確な収集活動を図るため、山地防災に関して一定の専門的知識を有する市町村職員、林業関係団体職員、県職員OB等で構成されている。

四国グリーン・ツーリズム推進協議会

四国4県が連携・協調し、四国が持つ海、山をはじめ、棚田、里山などの豊かな自然景観、四国遍路のお接待に代表される人情の深さや癒やしの風土を活用して、都市と農村の交流を促進するグリーン・ツーリズムを推進していくため、4県関係課で構成する組織。

施設園芸アカデミー

施設園芸においてスマート技術を駆使する人材を育成する研修として、令和2年度に開講。スマート技術の基礎が学べる「入門コース」と高度な環境制御技術を現場研修で学べる「実践コース」を設置。

指定棚田地域

棚田地域振興法に基づき、国が指定するもの。指定された場合、農林水産業事業の補助率の嵩上げ等の支援を受けることができる。

主伐生産システム

主伐による木材搬出を効率的に実施するための路網と先進林業機械等を組み合わせた生産性が高く安全な木材生産システム。急峻^{しゅん}な地形に対応した大型のタワーヤードや油圧式集材機などの架線系タイプと、林道や作業道などの路網を活かした車両系タイプがある。

将来ビジョン

「ワークショップ」を通じて、地域住民自らが発案した、農山漁村づくりのアイデアをまとめた「実行計画」のこと。アイデアは、地域にある豊かな自然や美しい景観等の「地域資源」を活用した内容となっている。

森林経営計画

「森林所有者」又は「森林の経営の委託を受けた者」が、自らが森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する5年を1期とする計画。

森林GIS

地図や位置に関する様々な情報をコンピュータを用いて重ね合わせて、視覚的に表示させるシステムで、このシステムを森林管理に応用したものの。

スマート林業プロジェクト

川上の県産材生産から川下の木材利用まで産業振興を目的とした林業施策を一体的に展開し、最先端技術を取り入れた林業・木材産業のスマート化による成長産業化を図り、森林・林業を核とした「地方創生」の実現を目指すため、10年後の戦略目標と4年間の行動目標を掲げた計画。

世界農業遺産

世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を、国際連合食糧農業機関（FAO）が認定する制度。平成30年3月、本県の「にし阿波の傾斜地農耕システム」が認定された。

セーフティネット

あらかじめ予想される危険や損害の発生に備えて、被害の回避や最小限化を図る目的で準備される制度や仕組み。

た 行

多面的機能

農業・農村の有する「多面的機能」とは、「国土の保全、水源の涵養（かんよう）、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能」のこと。

多面的機能支払交付金

農業・農村の有する「多面的機能」が今後とも適切に発揮されるよう、交付金（「農地維持支払」と「資源向上支払」）により地域の共同活動を支援する制度。

田んぼの学校

古くから農業の営みの中で形づくられてきた水田や水路、ため池、里山などを、遊びと学びの場として活用する環境教育。

畜産クラスター

畜産農家をはじめ、地域の関係者が連携・集結し、地域ぐるみで高収益型の畜産を実現するための体制のこと。

地籍調査事業

一筆ごとの土地について、その実態を明らかにするため、所在、地番、地目及び境界の調査と登記簿に記載された所有者の表示事項に関する確認と、境界の測量及び面積の測定を行い、調査の結果を地図及び簿冊に作成することをいい、いわば土地に関する戸籍調査ともいうべき基礎的な調査を行う事業。

中山間地域

一般的に、平野の周辺部から山間地に至る、平坦な耕地が少ない地域。国や県では中間農業地域（林野率は主に50～80%で、耕地は傾斜地が多い市町村）と山間農業地域（林野率が80%以上、耕地率が10%未満の市町村）の二つの地域を合わせた地域を中山間地域としている。

中山間地域総合整備事業

国の交付金や補助金を活用し、中山間地域の農業の生産性の向上と農村の定住条件の整備、国土の保全等を目的に、農業用水路や農道などの生産基盤および集落排水や集落道などの生活環境基盤に係る各種整備を総合的に実施する事業。

中層型浮魚礁

カツオ、マグロ、サワラなどの回遊魚の、水面や水中の構造物に集まり、滞留する性質を利用して、水中（水面から20～50m程度の深さ）に構造物を設置することで、その周辺に魚を寄せ、効率的に漁獲することができるようにするための施設。

地理的表示保護制度（GI）

地域で育まれた伝統と特性を有する農林水産物・食品のうち、品質等の特性が産地と結びついており、その結びつきを特定できるような名称を「地理的表示」といい、その名称を知的財産として国に登録することができる制度。

とくしまエシカル農産物

持続性の高い生産方式で栽培される「GAP認証取得農産物」、「エコファーマー生産農産物」、「有機農産物」を「とくしまエシカル農産物」として位置づけ、消費者にPRを行っている。

とくしま木づかい県民会議

県産材の新たな利用分野を開拓し、幅広く「木を使う」気運を高めるため、林業・木材・建築関係者に加え、商工団体、子育て支援団体、大学や高校、市町村など、100以上の団体が参画し、「県民総ぐるみ」で県産材利用を進める団体。

とくしま漁業アカデミー

浜を支える意欲ある担い手の確保・育成を目的とした、誰もが徳島の漁業を学ぶことができる漁業学校のこと。即戦力となる新規漁業就業者を養成する長期講座や、本県漁業の魅力発信を担う人材や次代の浜のリーダーを養成する短期講座から成る。

とくしま漁業就業マッチングセンター

漁業に興味を持つ県外の移住希望者を対象に、就業相談窓口業務を行う機関で、県内と東京に開設。

徳島県食育推進計画

県民が生涯にわたり、健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、食育基本法第17条に基づき本県が策定した計画。

徳島県鳴門わかめ認証制度

「トレーサビリティ（加工履歴管理）」を備えた加工業者を県が認定し、認定を受けた事業者が生産する「適正な食品表示」の確認された徳島県産鳴門わかめ加工品に「認証マーク」を表示することのできる制度。

とくしま県版保安林

「徳島県豊かな森林を守る条例」に基づき、水資源や県土の保全機能の維持増進を図るため指定した「森林管理重点区域」の中で、特に重要な地域を伐採や開発行為を制限して管理するため「第1種地域」として指定した森林。

とくしま水産創生ビジョン

本県水産業の課題解決に向けた取組を加速し、「水産業の成長産業化の実感」を実現するために必要な施策を取りまとめた総合的な指針。

とくしま特選ブランド

徳島ブランドを「世界に誇れるトップブランド」とするため、一次産品・加工食品・伝統工芸品の3分野より①国内外に誇れる品質、②商品ストーリー、③独自のこだわりを併せ持つ徳島を代表する優れた県産品を「とくしま特選ブランド」として認定。

とくしま農林漁家民宿

「とくしま農林漁家民宿確認要綱」に基づく、農林漁業者が営み、宿泊者に農林漁業体験を提供する、客室延床面積が33㎡未満であり、かつ定員が10名未満の小規模な民宿のこと。

とくしま農林水産未来人材スクール

農林水産業の各アカデミー等が一体的に魅力発信や受講生の募集を行うため、令和元年度に開設。

とくしまハンティングスクール

鳥獣害対策の担い手となる狩猟者を育成するため、平成30年度から県が開催。狩猟免許の取得や、実践的な狩猟技術、ジビエとしての利活用等を学ぶことができる。

とくしまブランド海外協力店

海外において県産農林水産物を扱い、「認知度向上」や「消費の拡大」に協力いただく店舗を登録し、店舗においては、県産品を積極的に販売するとともに、消費者に「徳島」を強く印象づけるポスター等のPR補助品を設置し、販促活動に協力する。

とくしまブランド推進機構（地域商社阿波ふうど）

マーケットイン型の産地育成を柱に、徳島県産農産物の生産、流通、販売をトータルサポートする組織として、徳島県と県内農業生産者団体（徳島県農業開発公社、JA徳島中央会、JA全農とくしま）が人と機能を持ち寄るコンソーシアム（共同事業体）として、平成28年1月に設置。

とくしま^{ふるさと}農山漁村応援し隊

農山漁村地域の保全・活性化を目的に、社会貢献に前向きな企業、大学等（協働パートナー）と、応援を求める農山漁村地域（ふるさと団体）の間を県が取り持ち、農作業や地域のコミュニティ活動を両者の協働により行う取組み。

「とくしま三ツ星ビーフ」認定制度

令和元年度に創設した県独自の新たな牛肉の認定制度。「肉用牛ブランド」の定義としては全国で初めて「JGAP家畜・畜産物」の認証取得を必須条件とし、県内の生産者がこだわりをもち生産した「とくしま育ちの牛」、「高品質な枝肉」の3つの要件をすべて満たした牛肉1頭ごとに、「とくしま三ツ星ビーフ認定要綱」に基づき認定。

用語解説

とくしま森林づくり県民会議

県民、企業、行政などの各主体が、それぞれの役割に応じた積極的かつ主体的な森林づくり活動が実践できるよう調査研究や普及啓発に取り組んでいくことを目的に設立された団体。

とくしま林業アカデミー

林業就業希望者を対象に、1年間で実践的な林業技術を習得させ、県内林業事業者等へ即戦力となる人材を輩出することを目的とした、公益社団法人徳島森林づくり推進機構が運営する研修機関。

とくしま林道ナビ

林道に関する通行情報や周辺スポット・イベント情報など複数の情報を集めたり、それらの情報を提供する共通の基盤。徳島の林道で遊ぶお役立ちサイト。

な 行

日本型直接支払制度

農業・農村の有する国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的機能の維持発揮を図るため、それを支える地域活動、農業生産活動の継続、自然環境の保全に資する農業生産活動を「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づき支援する制度。

ニューノーマル（新しい日常）

これまでの日常とは違う、新しい生活習慣、新たな常態・常識などで過ごすこと。元々はリーマンショックの際に提唱された考え方が、今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、社会全体の構造に変化が起き、元の社会へは戻れないという考えから、新たな日常であるニューノーマルを構築することが求められている。

農業次世代人材投資事業

次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、「準備型」として就農前の研修期間（2年以内）の生活安定に、「経営開始型」として就農直後（5年以内）の経営確立に資する資金を交付する制度。

農業版BCP

「南海トラフ巨大地震」や「直下型地震」等の発災時に、農地や農業用施設の速やかな復旧と円滑な営農再開が可能となるよう課題と対策をとりまとめた事業継続計画。

農場HACCP

畜産農場における衛生管理を向上させるため、農場にHACCPの考え方を採り入れ、危害要因（微生物、化学物質、異物など）を防止するための管理ポイントを設定し、継続的に監視・記録を行うことにより、農場段階で危害要因をコントロールする手法。

農林水産業未来創造基金

進展するグローバル化に対応するとともに、意欲ある農林漁業者が未来を志向し、次代に継承できる農林水産業の形成を推進する事業に要する経費に充てるため積み立てられた基金。

農地中間管理機構

高齢化や後継者不足などで耕作を続けることが難しくなった農地を借り受け、認定農業者や規模拡大を志向する農業者などの担い手に貸し付ける公的機関。

は 行

ハラール（認証）

イスラム教の戒律に則って調理・製造された商品であることを証する制度。イスラム法において合法的なもの（主にイスラム法において食べられることを許された食品）である「ハラール」に対応した商品やサービスが認証される。

ビッグデータ

ボリュームが膨大でかつ構造が複雑であるが、そのデータ間の関係性などを分析することで新たな価値を生み出す可能性のあるデータ群のこと。

農山漁村協働パートナー

県の「とくしま農山漁村応援し隊」の趣旨に賛同し、農山漁村地域で農作業やコミュニティ活動を地域住民との協働により行う企業、大学、NPO法人等のこと。

フォレストキャンパス

県内外の大学生の研究の場や高校生の学習の場などに活用するフィールドを提供するため、県有林等に設けた林業体験林のこと。

フォレストサイエンスゾーン

徳島県木材利用創造センター（徳島市南庄町）を中核として、産学官が連携し次世代を担う人材の育成と研究開発を進めイノベーションを創出する森林林業・木材利用分野の知と技の集積拠点。

ふるさと水と土指導員

土地改良施設や農地の機能保全、都市との交流や地域住民活動を推進する中山間地域のリーダー的人材のこと。市町村長の推薦に基づき、県が任命する。

フードツーリズム

地域ならではの食・食文化をその地域（土地）で楽しむことを目的とした旅のこと。

保安林

水源のかん養、災害の防備、生活環境の保全・形成など公共の目的を達成するために、森林法に基づいて指定された特定の森林。保安林の持つ公益的機能の維持増進を図るため、一定の伐採・転用規制や必要な事業等が実施される。

ま 行

マーケットイン

企業が商品開発・生産・販売活動を行う上で、市場からの要請に即応していくため、消費者ニーズを十分に把握した上で、商品づくりを行い、市場に出すという「顧客ありき」の考え方のこと。

マリンサイエンスゾーン

本県水産業の成長産業化及びその関連産業の振興を図るため、産学官が連携し次世代を担う人材の育成と研究開発を進め、新たなイノベーションを創出する水産・海洋分野の知と技の集積拠点のこと。

（鳴門マリンサイエンスゾーン）

水産研究課鳴門庁舎と隣接する徳島大学水圏教育研究センターとで形成

（海部マリンサイエンスゾーン）

水産研究課美波庁舎と県有種苗生産施設（海陽町）とで形成

もと畜

食肉生産を目的として肥育される牛、豚、鶏の肥育開始前のものを指し、一般には、和牛の子取り農家が生産し、生後9カ月齢前後で市場販売される子牛が対象。

藻場

藻類が多く繁茂する水域のこと。魚介類に餌を供給するとともに、産卵場や稚魚の隠れ場となり、更に、海域の水質浄化の役割も果たしている。内湾の砂泥域に繁茂するアマモ場、穏やかな岩礁域に繁茂するガラモ場、比較的波浪の強い岩礁域に繁茂するアラメ・カジメ場などがある。

や 行

有機・特別栽培

有機栽培は、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を避けることを基本として、土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させるとともに、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した栽培管理方法。

特別栽培は、土づくりを行うとともに、節減対象農薬の使用回数が慣行の使用回数の5割以下であること、化学肥料の窒素成分が慣行の5割以下であることを満たす栽培方法。

輸出型園地

輸出に意欲のある生産者等の育成、魅力のある商品の開発の支援、輸出する品目の供給量を確保する体制の整備等を推進し、継続して安定した輸出を進めるための園地形成のこと。

ら 行

リカレント教育

自己実現やキャリアアップに向けて生涯を通じて学び直しを行うこと。

陸閘

人や車両の通行のために堤防等を切って設けられた海岸への出入り口を閉鎖する門。その門扉が、閉鎖時に堤防としての役割を果たす。

リタイアインフラ

新たな公共施設の完成や社会情勢の変化により、従来の役割を終えた公共施設。

リノベーション

既存ストックの用途や機能を変更して、性能を向上させたり、価値を高めたりすること。

林業プロフェッショナル

林業作業員の技能習熟度に合わせて段階的に技能向上を目指す「林業プロフェッショナル養成研修」を受講し修了した者の総称。

林道プラットフォーム

林道に関する通行情報や周辺スポット・イベント情報など複数の情報を集めたり、それらの情報を提供する共通の基盤。徳島の林道で遊ぶお役立ちサイト「とくしま林道Navi」のこと。

林内路網

林業を行うために森林内に整備された林道、林業専用道、作業道のこと。

六次産業化研究施設

農業者や漁業者等が自ら徳島ならではの特産品を用いた6次産業化のアイデアを具現化することができるオープンラボ機能を備え、高校、大学、民間事業者と連携し、加工食品等の試作などが行える研究施設。

六次産業化サポートセンター

6次産業化に取り組む生産者や事業者の相談に対し、対応する窓口。地域資源を活用した新商品の開発や販路開拓、事業計画策定の支援等に対し、専門家を派遣するとともに、各種研修会を開催。

わ 行

若手女性農業者フォーラム

農業生産技術や農産物加工などの研修等により、農業生産の重要な担い手であり農村地域の活性化に不可欠な女性農業者のスキルを高め、活躍の場を広げる取組み。

数字

4K (ヨンケー)

現行のハイビジョンを超える解像度の映像のこと。水平方向の画素数が約4千（千＝K）であることから、4Kと呼ばれる。

5G (ファイブジー)

第5世代移动通信システム（Fifth Generation）。次世代の通信システムとして、通信の超高速化のほか、「多数同時接続」「超低遅延」といった新たな特徴を持つ。

A B C

AI

「Artificial Intelligenc」の略語で、人工知能を表す。人間が持っている認識や推論などの能力をコンピュータでも可能にするための技術のこと。

B to B

「Business to Business」の略語で、企業が企業に対してモノやサービスを提供するビジネスモデルのこと。

D級材 (A・B・C・D級材)

柱や板などの製材に使われる原木（丸太）をA材、合板用をB材、パルプやMDFの原料チップ用をC材と呼ぶのに対し、熱源ボイラーや発電用燃料として利用される原木をD材と呼ぶ。

近年、全国での木質バイオマス発電所の稼働に伴い、急速に需要が伸びている。

DX (デジタルトランスフォーメーション)

デジタル技術の浸透により、既存の価値観や枠組みを変革していくこと。

EC (electronic commerce) サイト

インターネット上で、商品やサービスを販売するウェブサイト。

GAP

「Good Agricultural Practice」の略語。農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組。食品安全、環境保全、労働安全に加え、人権保護や農場経営管理等に関する項目が全て含まれたものが国際水準GAPであり、JGAP、アジアGAP、グローバルGAPがこれに該当する。

(とくしま安²GAP)

全国に先がけ、平成23年から徳島県が運用するGAP制度。基本認定と優秀認定の2段階認証とし、優秀認定は国のGAPガイドラインに準拠する。

(JGAP)

日本における実質的なスタンダードGAPであり、日本GAP協会認定の審査機関により認定される。

(アジアGAP)

日本発の国際水準GAP認証制度であり、日本GAP協会認定の審査機関により認定される。世界食品安全イニシアチブ（GFSI）認証規格であり、グローバルGAPと同等である。

(グローバルGAP)

ヨーロッパを発祥とする国際水準GAP認証制度であり、Food PLASG GmbH認定の審査機関により認定される。GFSI認証規格であり、国際水準GAPでは審査基準項目が最も多い。

HACCP

「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略語。食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析（Hazard Analysis）し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点（Critical Control Point）を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法。

ICT

「Information and Communication Technology（インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー）」の略語で、情報や通信に関する技術の総称のこと。

IoT

「Internet of Things（インターネット オブ シングス）」の略語で、「モノのインターネット」を訳される。身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながることで、より豊かで便利な生活をもたらすことが期待されている。

JGAP家畜・畜産物

日本GAP協会により開発されたGAPスキームの一つ。農場運営、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、人権の尊重及びアニマルウェルフェアで構成される家畜・畜産物の総合的なGAP。

LPWA

「Low Power Wide Area（省電力広域無線技術）」の略語で、少ない消費電力で長時間の通信ができる無線技術の総称であり、IoTに適した通信方式のこと。

MDF

建材や家具に使われる木質ボードの一種で、中質繊維板（Medium-Density-Fiberboard）の略。製造工場は国内に3工場あり、うち1工場が徳島県に立地している。製法は、木材の繊維を取り出し、接着剤と一緒に圧縮成型するもので、製品は表面の平滑性や均質性に優れる。

PR車両

県内外の量販店やイベント等に展開し、県産農林水産物のPR、物産・阿波おどり等の観光、人形浄瑠璃等の文化等、徳島の魅力をまるごと全国に発信している、調理機能や舞台機能を備えた2台の県有トラック（「新鮮 なっ！とくしま」号、でり・ぱりキッチン阿波ふうど号）。

SDGs

2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳に参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のこと。先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット（達成基準）から構成されている。

Society5.0

革新技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と同時に、様々な社会的課題の解決を図り、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を享受できる未来社会。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された。

Turn Table

平成30年2月、東京都渋谷区に開設した徳島の情報発信と交流の拠点。宿泊施設やレストラン、物販機能等を併せ持つ施設として、徳島の豊かな食をはじめ、文化や観光等、徳島の魅力を発信し、県産品の販路拡大や「徳島ファン」の拡大、さらには「徳島への観光や移住」へと繋がる取組みを展開している。

VR

「Virtual Reality」の略称で、コンピュータ上に仮想的な世界を作り出し、あたかも現実にそこにいるかのような体験をさせる技術のこと。

WCS

実が完熟する前に、実と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料のこと。ホール・クロップ・サイラージ (Whole Crop Silage)。